



明行寺の枝垂桜と 阿蘇市内の桜

文化財保護委員 湯浅 陸雄

◆明行寺の枝垂桜

今回は阿蘇市内にある桜について紹介します。

現在、市の指定天然記念物となっている樹木の中で、桜の木は内牧にある「明行寺の枝垂桜」の1件です。

夏目漱石の小説「二百十日」ゆかりの寺として知られている明行寺の境内には、枝垂桜の他に公孫樹と山茱萸がそれぞれ市指定の天然記念物となっています。(詳細は「みんなて護ろう文化財」Vol.31を参照)

明行寺の枝垂桜は、詳しい年数は不明ですが、その樹齢は350〜400年と推定されており、県内でも有数の老木です。境内の畑地にあり、毎年3月下旬頃に淡紅色の可憐な花を咲かせています。

永い樹齢を物語るように、幹の中央部はすでに朽ちて空洞となっていますが、周辺の外皮によって今のなおその生命を保ち続けています。

樹囲は3.2m、高さは7m、根回りは4mあり、枝垂桜としては大木です。枝張りは11m程で、枝の先端は地表近くまで垂れており、老木らしい風格ある姿を見せています。

◆阿蘇市内の桜

市内にある桜は山桜系が多く、樹齢300年を越えると思われるものもあります。老木の特徴として、樹齢200年を越える桜の幹には「ねじれ」が生じるようになり、外見から樹齢を推し量る目安となります。



▲明行寺の枝垂桜



▲赤仁田の枝垂桜

桜の名勝として、カドリードミニオンや阿蘇体育館横、長寿ヶ丘公園や内牧の黒川堤防、旧阿蘇町尾ヶ石地区、一の宮町坂梨豆札地区などがあり、春の季節に美しい光景を見せます。近年では波野の中道地区の大桜が新聞などに取り上げられました。桜は病気に弱く、特にテングス病が蔓延して枯れてしまう事例が市内でも見られます。しかし、桜を管理する各地区や団体の方々の手入れによって、毎年多くの桜の木が花を咲かせています。

指定文化財である「明行寺の枝垂桜」をはじめ市内各所に見られる桜の木々を、地域の宝としてこれからも大切に守っていききたいものです。

◆文化財保護委員のご紹介◆

市内の貴重な文化財の保護活動をされている12名の文化財保護委員を紹介いたします。各委員を中心に文化財の指定、点検、調査等を行なっておりますので、市民の皆様には今後文化財保護へのご協力をお願いします。

- | | | |
|------------------|------------------|----------------|
| 委員長…渡邊 照義(役犬原地区) | 副委員長…後藤 新一(波野地区) | 委員…中村 仁美(黒川地区) |
| 江入 鐵雄(跡ヶ瀬地区) | 山下 平助(波野地区) | 成瀬 保廣(西湯浦地区) |
| 武田 賢次(手野地区) | 中川 竹久(坂梨地区) | 上島 徹男(宮地地区) |
| 中田 澄生(赤水地区) | 湯浅 陸雄(内牧地区) | 駿河 郁代(中通地区) |



▲坂梨公民館駐車場の桜